

大規模地震の発生を想定した 「トリアージ訓練」を実施

トリアージはフランス語の「Triage」に由来し、「選別」という意味を持っています。災害時、医療資源（医療スタッフや医薬品等）が限られた状況の中、一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うた

め、先着順ではなく、治療の緊急性や症状の重症度から治療の優先順位を決定して搬入・治療などを行うことを指します。トリアージでは、優先順位を赤（重症）、黄（中等症）、緑（軽傷）、黒（死亡、あるいは救命困

耳原総合病院では、1月に、事業継続計画（BCP）トリアージ訓練を実施しました。訓練には医師・看護・技師・事務などの多職種、計70人が参加しました。



訓練後の振り返りでは「紙カルテやトリアージタグの記載に慣れておらず書き方がわからなかった」、「患者認識のないよう情報統一できる方法が必要」、「帰宅できない患者の待機場所や各エリアでの人員配置、役

難に色分けされたトリアージタグを傷病者に付け分類します。今回のトリアージ訓練は、震度6強の地震発生を想定し、電子カルテが使用できない状況下、紙カルテで患者診療を行うという内容で行いました。

訓練の目的は、トリアージを行う場所のスムーズな設営、適切なトリアージの実施、紙カルテ運用を目標に、訓練を実施することで改善点や課題を抽出することです。

①トリアージをしている様子



割分担、動線など改善が必要」などの課題が多く出ました。今回の訓練を通して抽出した課題をもとに、情報共有の方法・運用など今後改善に取り組みしていきます。

災害現場用				特記事項(二次トリアージ)		
NO.	氏名(Name)	年齢(Age)	性別(Sex) 男(M) 女(F)	実施者氏名		
住所(Address)			電話(Phone)	時刻		
トリアージ実施日・時刻 月 日 AM/PM 月 日			トリアージ実施者氏名	呼吸数 /分	/分	/分
搬送機関名			収容医療機関名	血圧 / / /	脈拍数 /分	/分
				意識レベル		
				処置等		
				トリアージ区分 <input type="checkbox"/> I <input type="checkbox"/> II <input type="checkbox"/> III <input type="checkbox"/> O		

一次トリアージ 語順に間違いチェックし、0～Ⅲのいずれかに至った時点で終了

歩行 可能 不可能 → III

呼吸 無 有 10-29/分 ≥120/分 <120/分 → I

機動性 可 不可 → II

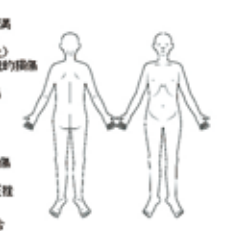

単生命 可 不可 → II

特記事項(二次トリアージ)のチェック項目:

- 呼吸数: 12未満30以上
- 収縮期血圧: 90mmHg未満
- 脈拍数: 50未満120以上
- GCS: 13以下(GCS 10以下)
- 顔面から腹部までの創傷・損傷
- 閉鎖性気胸/開放性気胸
- 顔面・胸部の高圧な損傷
- 顔面・胸部の皮下気腫
- 外傷性肺挫傷/肋骨骨折
- フレイルチエス
- 骨盤骨折・下肢骨折
- 35以上の高齢者・気道閉塞
- 四肢の麻痺・長時間の圧迫
- 四肢の凍傷

該当項目が4以上の場合 以下は II を考慮

- 歩行不能
- 専門家の治療を要する外傷
- 災害弱者(高齢者・妊婦・乳幼児・高齢者)

トリアージタグ

②トリアージタグにより分類

